

令和2年度 第1回臼杵市総合教育会議 会議録

開催日時 令和2年10月29日(木) 10時00分開会(～12時00分閉会)

開催場所 臼杵市役所 全員協議会室

出席者氏名  
臼杵市長 中野五郎  
臼杵市教育委員会  
教育長 安東 雅幸  
委員 神田 岳委  
委員 渡辺 義弘  
委員 村上 睦美  
委員 佐藤 寛倫

(事務局)	(教育委員会事務局)
秘書・総合政策課長 平山 博造	教育次長兼教育総務課長 甲斐 尊
秘書・総合政策課課長代理 吉良 猛	学校教育課長 後藤 徳一
秘書・総合政策課課長代理 佐藤 靖寿	社会教育課長 川辺 宏一郎
秘書・総合政策課 主幹 花崎 成巳	学校教育課課長代理 岩崎 努
	社会教育課課長代理 安藤 隆文

欠席者 なし

- 会議事項
1. 開会
  2. 議題
    - (1) 学力向上の対策について・・・学校教育課
      - ・読書活動との関係について
      - ・ICTを使ったオンライン教育の現状と今後の取り組みについて
    - (2) 新型コロナウイルスが及ぼした影響について・・・学校教育課
      - ・授業時間の確保について
      - ・体力・肥満の状況について
      - ・いじめ対応・不登校支援について
    - (3) 新型コロナウイルスの影響による社会教育活動とスポーツについて・・・社会教育課
  3. 報告事項
    - 中学生と市長の意見交換会について・・・秘書・総合政策課
      - ・11月4日(水)に開催予定の野津中1年生と市長の意見交換会
  4. 閉会

## 意見交換 (主な意見)

### 議題

#### (1) 学力向上の対策について

- ・読書活動との関係について

##### 委員

図書館については市の方針のおかげで各学校、全部の小中学校に学校図書館専門員を入れていただいております子ども達にとっては随分ありがたい。今後ともなお、継続をしていただきたい。

##### 事務局

年度に是非読んで欲しい本を決めてどれだけ読んだかを学校の主標にしている学校もある。教育委員会としてもそのような取り組みが増えいくように指導していきたい。

##### 委員

学校図書館専門員にいろんなジャンルを子供たちが読める様に指導してもらいたい。

##### 委員

子供達の読書離れ、活字離れは大人も一緒である。読み聞かせボランティアの人員が不足しており人員配分に苦慮しているので知っていただきたい。

##### 市長

小中学校の時に本を読む機会を持って本との出会いでいろんな疑似人生とかいろんなものを体験することによって感動したりすることは大切であり、その場を提供するという意味でも学校図書館の充実が必要である。

##### 委員

学力定着調査は全国平均を上回る結果が出ており、先生方に大変熱心に教育していただいている証が数値で見取れる。

##### 委員

教員の多忙化が問題であり長時間労働が解決すれば子ども達への教育の質が向上するのではないかと思う。またそれが学力テストなどに反映されると感じている。

2023年のギガスクールも前倒しになり、新学習要領も入っており先生方の負担も大きくなってくるので人員を増やすのに役割分担等を考えていただきたい。

##### 市長

基礎学力をつけて中学を送り出すのは大人の責任である。学力を学校の先生方に力を借りながら親や地域が一緒になって育て15歳の春を迎えることを出来るようにすることが責任であり、あおのためには、基礎学力をつけてもらう整備が必要である。

##### 委員

本を読む子と読まない子の差が出てきていることが課題である。一年間で必ず読む本を決める等の取り組みが必要。

- ・ICTを使ったオンライン教育の現状と今後の取り組みについて

##### 市長

全員が端末、IPADを持てる体制になると既存の教材ソフトは沢山ありそれをどう選ぶか等の問題があるため、先生方の指導力、授業力を高めないといけないし、質を高める研修会が必要である。

##### 事務局

教員よって全くスキルの大きな差があるためそのスキルを一同化するには大きな課題である。

##### 教育長

ICT推進協議会を教育委員会と立ち上げて、ICTを学校現場でかなり使える先生がお手上手くICTを使った授業が出来る様に臼杵市独自でつくっていききたい。ギガスクール構想を前倒しで推進しており先生方が操作に悩まないようにすることが大事である。子ども達の中にも配した段階で使える子もいるのでスタンダードを上げていく取り組みを組織的にしていく。

#### 委員

デジタルとアナログの融合が難しいので図書専門員のようにICT専門員の方がきちんと授業改善をしていかないと難しいと思う。

#### 教育長

働き方改革の一面として教科担任制を入れることと、少人数学級はやはり効果が出てきている。

#### 市長

働き方改革は一朝一夕にすぐ解決するものではないが先生達が教科の予習・復習に時間が取れる等のしっかりしたものをつくっていかなければならない。

教員の多忙化、長期間労働が解決すれば子ども達の教育の質が向上し、それが学力に反映れるので働き方改革は重要である。

#### 委員

ICT教育を進めていくのに大事なことは人間をつくることであり、沢山の便利な機械を使うことは大いに結構だが、あくまでツールで使うことであって、それがメインとなっていけば当然のことながら人間というのが出来ていかない。変わるものと変わってはいけないものをそれぞれが自覚しながら進めていかなければならない。

#### 市長

基礎学力をしっかり育てて送り出すという事は先生方、教育委員会、市も含めて親に対しての責任を果たしていかなければならない。

#### 教育長

校長会も一緒になり学力向上プロジェクトを立ち上げて全国平均を全部の学年でクリアしている。全国平均は軽く超えていく学力をつけていきたい。

#### 委員

コロナだけでも実施しなければならない事が沢山あり、幼保小中連携やブロック内の連携など出来る方法を見つけて白桦っ子育てが軌道に乗りかけていたものを継続していかなければならない。

## (2) 新型コロナウイルスが及ぼした影響について

### ・授業時間の確保について

#### 委員

市教委や先生方が大変良くしてくれたと思っている。

#### 委員

先生方の努力や保護者の理解もあり感染者が学校内でも出ずクラスターもなくて良かった。今後、ロックダウンがあった時の対策はもう一度立てていく必要がある。

### ・体力・肥満の状況について

#### 委員

太っていることがすごく良いことだと思っている保護者がおり、痩せていると栄養不足と思っている人がいる。その辺の意識改革をさせることが大事である。いじめについてはどんな小さいことでも全て拾い上げているということで数が多く感じるが、どんな小さなことでも全て拾い上げており早め早めに芽をつむのは大変良いことである。

#### 市長

学校の統廃合によりスクールバスで学校まで遠い人が乗っており、それが結果的に運動不足になりエネルギーをため肥満になっている。

#### 事務局

肥満対策の要因は一つではなくいろんな取り組みを総合的にしており、色んな取り組みを総合的に実践していけたらと考えてる。

#### 委員

家庭環境の問題であり、物質的には沢山物があふれて便利になっているが、心の貧困の問題である。子どもの環境は親がつくっており、生活スタイルの多様化があり一概には言えない家庭、親の教育力の低下に問題がある。

- ・ いじめ対応・不登校支援について

#### 委員

いじめの件数が出ていることが現場の透明化、風通しがよくなっており、良いことだと思う。

- ・ 新型コロナウイルスの影響による社会教育活動とスポーツについて

#### 事務局

施設等については基本的にオープンしておりが、密のところや人数制限がある所は新型コロナウイルスの影響が出ている。

諏訪山体育館は6月から全面改修を行い12月末までの計画となっておりオープンは1月4日の予定。

## 開会

(事務局)  
平山課長

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。今年度第1回目となりまず総合教育会議でございます。本会議は平成27年4月に施行されました地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律に基づきまして地方公共団体、首長と教育委員会が教育行政につきまして、総合的に協議、調整をする会議でございます。平成27年度から開催をしているところであります。この会議は原則公開でありますので本日2名の傍聴者がおられますのでご報告いたします。議事録につきましては後日、HPで公開をいたします。それでは次第に従って進めてまいりたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いをいたします。それでは初めに、中野市長から開会のあいさつをお願い致します。

中野市長

皆様、おはようございます。令和2年度第1回臼杵市総合教育会議を開催したところ全員の教育委員さんにご出席していただきましてありがとうございます。この総合教育会議の経緯につきましては先程、平山課長の方から説明がありましたように特に教育基本法の改正をしてこれをつくろうという時は大津のいじめの問題、自殺の問題等々でこういった形のものが必要だという形で法律改正をして会議の開催に至った経緯があります。特に総合教育会議は首長の方が招集をして教育委員さんと意見交換をして臼杵市の教育大綱を定めてそれに基づく重点施策について意見調整しながら教育委員会専門に教育を担当しておられる教育委員会と首長、相互に連携をとりながら臼杵市の教育を振興していこうとそういう趣旨であろうと理解して総合教育会議をこれまでお願いしたところでもあります。今回、お手元に資料にありますように3つの議題を予定させていただいておりますがこれはどちらかというところ今の現場で一先懸命頑張っている教育関係の皆さん方がどういったことをされているのかというのをむしろ私の方が勉強をさせていただきたいということでお願いをいたしました。これ以外もフリートキングで何でも出していただきたいと思います。特に、今回こういうテーマになった一つの背景として、私は今年の一月にコロナウイルスの問題が全世界に拡散して国内の義務教育あるいは高校も含めて3月から一斉に学校を休校になりました。そしてそれがいろんな形で教育に影響を及ぼしました。そういうことを、今学校がどういう形で取組んで回復をして子ども達と対応しているのかそのようなことを是非お聞きしたいというようなことを考えてテーマにさせていただいたところです。私自身も個人的に考えまして今回のコロナウイルス感染症の中でたとえば3密を避けるとか新しい生活様式に代わっていかうとかいう形で前提として自粛生活というようなことが長く続いています。こういうものがこれからの社会に関して物凄く影響を与えてくるのではないかと、日が経つ程出てくるのではないかとことを思っています。当然教育の現場にもでてくるのであろうと思いません。今言われているのが、ウィズコロナとかアフターコロナと言われていますが、コロナが完全に無くならない、上手に付き合いながら社会、経済生活、あるいはいろんな日常生活を両立させていくかということと同時に、アフターコロナの世界、今までと何が変わっていくのかというようなことを考えなければいけない。今まで通りの発想では中々いかないのではないかとことを言われていますが、私もまさにそうだというふうに思っています。特に教育の中ではオンライン教育とかいう形で授業をしていますし、今年度中にすべての子どもに端末をいきわたるようにして、来年度からはそういう教育を中心にまたしていただくということになってくるので、是非そういった環境整備というところを我々も責任として実行していくところで予算化して議決していただいている所です。ただ、個人的に思うのはそういった形で授業が効率的・合理的なものでやっていくことによってプラスの面ばかりなのか、それが中心になって失うものはないのかということをお考えなければならないのではないかなというふうに思っています。特にオンラインという形で実施したときに本当のところ、教師と子どもが胸襟を開いて話合っ中で共感しながら人間形成とか納得していくようなそういうものが無くなっていくというような中では本当の教育にならないというふうに思います。そういう意味ではオンラインとかそういう形で今、国が推進するデジタル化が進めば

進むほどそれを一方ではそれを活用しながらより効率的に利便性の高い、そういったものをつくっていきながら一方で face to face とか Heart to Heart でやらなければいけないことというのは何なのかということを考えながらそれはそれでしっかり把握した教育をやっていかないといけないのではないのかなと思っていますのでその辺のところも聞きたいということで今回、こういう議題にさせていただいております。もう一つ、私は今回のコロナの問題でそういった変わるものがあるだろうと以前いったことがあります。ですがその中で変わったらいけないことがあるというのを考えなければいけない。一方で私が市政を担当させていただいて臼杵市のことを「住み心地一番の街づくり」を目指そうということで市民一緒になってチーム臼杵で頑張ってきたつもりであります。そういう自粛生活の中で改めて思ったのは、いままでの通りにいかないという中でわかったのは市民にとっては住み心地、つまり日頃の日常生活の中で市民の方が幸せを実感出来る、そういう街づくり、そういう環境、そういう行政整備が出来ていくことが一番問われて言うということを改めて、私自信は認識したつもりであります。そういう意味では「住み心地一番の街づくり」の6つの柱を立てたうちのいちばん最初に掲げさせていただいております「安心して子どもに子育て出来る環境づくり」、これを真剣にやっていくということがこれからアフターコロナ、ウィズコロナ、一層そういうものの重要さを認識していきたいと思っておりますし、これからも進めていきたいと考えていますので是非委員の皆様意見を伺いながら施策に活かさせていただきたいと思っています。今日は限られた時間ですがそういう意味で良い総合教育会議になればと思っていますのでよろしく申し上げます。

(事務局)  
平山課長

ありがとうございました。それでは議事に入ります。議事の進行につきましては中野市長にお願いをいたします。

中野市長

それでは、議題として3つ予定しておりますが、現在の取組状況をそれぞれ担当課から説明をいただいて意見交換を行いたいと思います。まず議題の1、「学力向上の対策について」学校教育課より説明をお願いいたします。

学校教育課  
後藤課長

議題

(1) 学力向上の対策について

・読書活動との関係について ・ICTを使ったオンライン教育の現状と今後の取組みについてを資料に沿って説明

中野市長

後藤課長の方から説明がありました議題1について教育委員の先生方、何か補足とか意見とかありましたらお願いします。

渡辺委員

図書館の件ですが、現在は市の方針のおかげで各学校、全部の小中学校に図書館の専門員を入れていただいているような内容のことが十分出来ていて子ども達にとっては随分ありがたいことだということで全体的にみても臼杵市がしているようなことを全部が全部そういうことになっていませんので大変そういう面では進んでありがたいことだなあと思っています。かつては居たり居なかったり、いても何校に1校とかあるいは何校か掛け持ちする中で図書館の司書の先生方も非常に苦勞なさって学校の方もそういう専門員の方が来れない時は図書室の利用の仕方についても子どももまちまちでこういった取り組みがほとんど出来ていませんでした。現在は全体的にみても臼杵市は随分と進んでこういったことが出来ていて非常にありがたいことだなあ。予算のかかることでそれをまずはこういったこ

とに使っていただいていることに感謝している気持ちで一杯です。今後ともなお、これを続けていただければありがたいと思っています。ありがとうございます。

村上委員

私も渡辺委員と同じでこのように一校に1人配属していただけるのは大変有難いことだと思ってお礼申し上げます。この一番の学校図書館専門員の業務内容の9番に児童・生徒への図書資料のレファレンスサービス（紹介・提供）とありますが、各学年の国語の教科書の後ろにこの学年で読んでおきたい本の一覧があったと思うんですがそういう本をその学年の間にその子一人一人がきちんと読んでいるとかかそういうふうな確認とかかそういう管理とかは専門員の方はされているのかお伺いしたいのですが。

学校教育課  
後藤課長

すべての学校を把握出来ている訳ではないのですが、ある学校の例なんですけれども委員さんがおっしゃるようにこの年度に是非読んで欲しい本を決めてどれだけ読んだかを学校の取組の学校面の主標にしている学校があります。出来るだけそういった取り組みが増えてくように指導していきたいと思います。

村上委員

今、おっしゃられたように、私は野津小学校のことしかわからないのですが野津小学校は読書のビンゴみたいな表を作ってこのコーナーから一冊読みましょうみたいな表をつくってましたのでいろんなジャンルから読むように進めているのは本当に素晴らしいなあと思いました。これからもいろんな学校でそういうふうないろいろなジャンルを子ども達が読める様に指導していただけたら助かります。よろしくお願いします。

佐藤委員

学校図書専門員の現状と効果、課題についての資1についてですが、やはり子供達の読書離れ、活字離れというのは我々大人も一緒だと常図痛感しています。私も娘がいますが小学校5年生までは毎日のように2冊、3冊と本を沢山借りてきて読んでいたんですが6年生になってからは、毎日外で遊ぶようになって全く本を読まなくなったんですけれどもそれはそれで私はいいかんと思っています。それから14項目目の読み聞かせボランティアへの選書協力とありますが、私は読み聞かせボランティアとして西中学校と市浜小学校へと毎回のように行っています。子ども達は大変興味を持って静かに聞いてくれます。終わった後も感想をしっかりと伝えてくれますし好奇心を持たせるように努力をして活動していきたいと思っています。人員不足が一番の問題です。毎回、コーディネーターの担当の方が人員の配分に大変苦慮されています。もし足りない場合は図書専門員からの要請とかが出来たらいいなあと思っています。私はこないだの下南の読み聞かせに呼ばれて行ってきました。いろんな学校が見れていんですが、現状は人員が足りないというのがありますので知っていただきたいと思っています。後、学力定着調査ですけれども県学力テストでも平均を上回る結果がでていますので先生方には大変熱心に教育していただいている証だなあと数値で見て取れます。私が一番心配しているのは先生方の働き方改革ということで教員の多忙化ですね、長時間労働、これが解決すれば子ども達への教育の質が向上すると思っていますしそれがまた学力テスト等に必ず反映されると思っています。2023年のギガスクールの件も前倒しになりまして新学習要領も入ってきて先生達の負担もものすごいにかかっているなあとということが分かります。人員を増やすのに役割分担をするなり等を考えていただきたいなと思っています。

中野市長

ありがとうございました。働き方改革につきましては後ほど教育長から現状等を説明をいただきたいと思いますが、これでわたしが将来に対して非常に深刻だなと思ったのは小学校、中学校の義務教育の先生の募集で競争率が3倍を切るのではないかと状況です。市役所だってそのような状況ではなくもっと多いです。3倍の中から選ばれる先生はなんて言いますか中途半端な先生と言いますか、全体としてかなり質が相当落ちるということを感じ

しないといけないと思います。普通は今までは6倍から10倍ある中でそういう意欲と能力がある人が教員に選ばれていたけれどもそういう人達が教員を選ぶような環境ではないんだな。これは一つの日本挙げての大きな課題だと思いますし、3人に1人くらいとなるとあまり競争のない世界になってくるので色々な問題を起こして先生が入ってくるのではないかなと心配をしていますがその辺の所を働き方改革とかして一方では保護者のクレーム的なものに愛想つかすと新聞などでみます。その辺の所を含めて教育長にお願いしたいと思うんですが、私が最初に学校図書館に全ての専門員を入れて子ども達に本を読む機会をつくって子ども達に基礎的なことをしっかりつくる所で頑張ってもらいたいと思って県下で全国に先駆けてこの制度をつくりました。これが出来るのも実はふるさと納税等々でかなりの人達が応援してくれているというのがあります。私の個人的な経験から言いますが小中学校の時に本を読む機会を持ってそして本との出会いで疑似人生とかいろんなものを体験することによっていろんなことに対して感動したりすることは非常に大切なことだし、それを是非そういう場を提供するという事は学校図書館の充実が必要だということだと思います。もう一つは自分の経験からですが、スポーツに親しんで汗を流したり悔し涙を流したり色々なことを社会性も含めて培っていくということは将来自立する上で大切なことだなど。その2つは臼杵に住んでいる大人が将来の臼杵、あるいは日本を担う子ども達を育てるという上で大事だということしてきたつもりであります。その中で私が言っているのは基礎学力をしっかりつけて中学を卒業するときに送り出したい、これは大人の責任なんだというふうに思っています。子どもがいろんなある意味ではアンビシャスと言いますか待望や野心とか自分がしたいことを持ちながらそれを目指すための高校選択という時期がきます。やはり人生の中で願望を持ちながら厳しい人生というのは折々に選択というのは通らざるを得ないんですね。例えば高校に入るという選択もあるだろうし、職業の選択があるだろうし大学に入る時も選択がある。そういう中で自分の願望を実現していくためには特に高校となると行きたい、こういうことをしたいとチャレンジするときにはやはりそこを受験しようと、受けても大丈夫という学力を学校の先生方に力を借りながら親や地域と一緒にやっていってそういうものが出来るというのを育てて15歳の春を迎えさせるのが責任であろうということで基礎学力をしっかりつけてもらいたい。そのために必要なことは条件整備が私達の責任としてやらせていただく取組んでいます。その中で学校図書の問題があるんですがこれを聞いて私の方からお聞きしたいんですが子どもを読書の環境をつくっていくということで、経年経過を課長から説明していただいたのですが、それを聞いてみて一つの課題があります。一つは本を読む子と読まない子という差が出てきている。佐藤委員がおっしゃったように全ての子どもを強制的に読ませる必要はないと思うんですが、読むことと読まない子の差をどのように考えているのか、もう一つは読書の数より質の高いものをこれからしていかなければならないとこれからの課題と思っています。その辺のところをどう考えているのかなと思います。APUの出口学長がおっしゃっていたのですが人間自分の心を豊かにしていろんなノウハウも蓄積していくには人とで出会うことと本と出会うことと旅をすることと言っています。その辺の人と本というところがやはり基礎的な所で我々もしっかり子ども達の環境をつくっていかなければならないと思って取り組んでいます。この思いは一緒だと思います。学校教育課長、今言った読むことと読まない子の差が出てきている現実と質を高める指導をやっていくにはどういった対策があると考えますか。

学校教育課  
後藤課長

一部個人的な見解になるのですがやはり先程村上委員さんが言ったように闇雲に読むのではなくてある程度この20冊はこの一年で必ず読むように、そういった取組みがある意味近道になるのではないかと考えています。これまでの現場にいた時はそういった話もしてきましたし、課長としてもそういった取組みを指導していきたいと思っています。



中野市長 前に聞いた時は学校図書専門員としてのレベルを上げるために市立図書館の司書と合同研修とかいう形で、かなりその辺の取り組みをしているというのを聞いています。その辺のところはどうなっていますか。

学校教育課  
後藤課長 今年、合同研修はまだコロナの関係もあって実施出来ていないと思います。ただ、そういった取り組みを進めて臼杵市の図書館専門員の質の向上も当然図っていききたい考えています。

中野市長 その次のICTの所で聞いていてこれからICT教育を充実させていくという時に一番ポイントとなっていくのは来年度、ほぼスタート出来るということで全員一人一人が端末、IPADを持てる体制をつくるということとなると一方では既存の教材のソフトは沢山あってそれをどう選ぶかということもありますし、一方では地域の実情においたそういった教材を先生達がつくっていくと言うことがあるんじゃないかなと思うんですがそういう意味ではやはりIPADをどう使うかということはそういう先生方の指導力と言うか授業力がかなり試されるというか高めれないといけないし、その辺の所で差がついてくるという事があると思うんでそういう意味では先生方の質を高めたりする研修会とかいうのは随分考えているんですか。

学校教育課  
後藤課長 現在の状況においても各学校に全部集めれば教職員分は十分ありますのでIPADを使ってICT支援員が各学校を巡回する等の研修を行っています。市長がおっしゃるように教員によって全くスキルの大きな差がありそのスキルを一同化するのには本当に大きな課題となっています。

安東教育長 教職員の研修なんですけれども先日、ICT教育推進協議会というのを教育委員会と立ち上げました。学校現場の先生方、校長先生、教頭先生、それから保護者、市P連の方、県の専門的な知識を持つ方、10名程度で推進協議会を立ち上げて、実際使う部分について専門委員会を設置いたします。ここはICTを学校現場でかなり使える先生方がいますのでそういう方々、それから国や県から指導者を呼びながらそこにいろんなデータを蓄積する所をつくって先生方がこの単元で上手くICTを使った事業がないかなとしたときにアクセスするとヒントが出てくるというようなシステムを臼杵市が独自でつくっていきたいと思います。そして他とのリンクも貼りたいと考えています。着々と進めていますしかなりのお金を投入して、議会の承認も経てギガスクール構想を前倒しで推進しましたのでよいよタブレット端末が配られた時に先生方が悩まないようにということが大事ですし、子ども達が配付した段階で使える子どもも沢山いますのでそこら辺のスタンダードを上げていく取り組みは組織的にしていきたいと考えています。

中野市長 佐賀県の多久市という人口2万そこそこの小さな市があるのですがここの横尾市長ですが彼自身が非常にこういうテクニカルなことに興味を持っていて教育の効率化というような形で取り組んでいます。10年位前からして多分それが一番進んでいるのではないかと思います。そこでいかに先生方の授業力を上げてきました。ただ、それが済んだ上で大きな課題はこれは宿命なんです先生方が人事異動で外に出たりします。そうすると折角一定レベルにいったけどまた新しい人が入ってきてやり直さなければならないというのがあるんでそういうことを考えたら大分県挙げて一つの体制の中でそれぞれの自治体がそれぞれのプラスαのことをやっていかないとせっかく例えば臼杵でやってレベルを上げたきた先生が大分市とか津久見市、向こうは向こうでしているんでしょうけれども、また来た時に最初からしなければならぬと自治体間でおければ全体的にレベルを上げるのは難しいので、是非、教

育委員会の中で県教委にさせていただいても良いのではないかなと思います。そのことについては、知事の方にもお願いしていきたいと思います。このオンラインを使って教育だけではなくて会議とかもしていますが、神田委員にお尋ねしますが、会社としてもいろいろされていると思うんですけれども、さっき私が言ったようにオンラインですするというのも効率的で良いと思うんですけれどもそれだけでいいのかなという所もあるのでその辺はどうなのでしょう。

神田委員

そうですね。コロナの時期には学校にこれない子がオンライン事業した時にあくまで講義形式になってしまっただけで一方的になるんですけれども、今後 I P A D を使って双方向的なものになれば授業の確立はある一定は出来るのではないかなと。ただそれは市長がおっしゃる通り先生達のスキル、子ども達の教育にもよるとは思いますが。我々も最初は会社としてズームやスカイプを使って会議をする時にただ話すだけではなくて電話の延長線だったのですが今はその中に資料を落とし込んだり直接資料を書き込んだりお互いにファイルを共有しあったりすることや、後はリアルタイムで我々の場合なんですけれども手術中に I P A D を繋いで他の専門の先生からその血管を切ると死んでしまうよとか言われたりします。そういったテクニカルな部分もスキルが上がってきているので実際にはデジタルはデジタルで完結しません。特に授業は I C T を使ったときにデジタルとアナログの融合が一番難しくなってくると思います。資料 2 の下にも載っていますけれども溶解をつくるのはアナログでつくってそれをアップするのはデジタルで発表するのは i p a d 上で完結するんですけれどもそれを取ってここに載せるまでにつくるのはアナログでつくる。それを撮って載せて評価して事業に持ち込むまでがデジタルなんですけれどもアナログとデジタルの融合こそが今からの授業にととても大事なことではないかなと思います。すべてデジタルで授業は完結しないと思います。先程、言ったように授業でデジタルをアナログに変換することが一番難しいのでそこは図書専門員さんがいるようにやはり I C T の専門員の方、プロの方がいてきちんとした授業改善をしていかないと難しくなるのではないかなと思います。学校ごとにやはり差が大きくなってきている気がします。使えば使うほどよい機材だと思います。

中野市長

この I C T の授業というのは学校の中での専門であろうかと思うんですけれども、最もなところはやはり、家庭間格差が相当につくのではないかなというのが前提としてあるのではないかなと思います。子どもの時からそういうのに慣れて勉強してきた子と、どんどん自分で自分の内を広げていけるような人が出てくるだろうし学校で i p a d 使うのが初めてというところで親がそれはなんですかとかそういう問題も全体としてあると思うんです。今神田先生が言われたとおりアナログとデジタルの融合という言葉は全くそうだけどそれを具体的に実践するのはどうすればいいかと言うのは 1 人 1 人先生が考えてやっていた相互批判、相互勉強でもらうしかないし指導をしようと思うんですけれどももう一方でわたしが常に思っているのは世の中で電話とか、携帯電話とか連絡事項はできますよね。だけど、直接面と向かって face to face で顔を見ながら相手の表情の変化を見ながら言って理解してもらわないといけないと思います。その辺の大切さというのをどのようにするのか。極端なことを言ったら東京でこのことについて理解していただきたいという時に霞が関のどここの何々課長の所で 3 0 分時間をもらってそこで直接話して勝負する。その為だけに東京に 1 泊 2 日で行かざるを得ないとかですね。それだったら電話ですませば楽ではないかな。それは電話で言うべきことではない。直接会って説明をして理解を求めないといけないような事を学校の先生とその子ども中でもあるし子どもの中でもある。そういう大切さがあるというのをやはりどこかで気が付きながらそういうことをすると言うのを融合の中の一つかもしれないがそういうことも是非考えていただきたいと思います。例えば俗なことを言えば愛の告白をメールで済ますというのは普通ありえない話と思っていたら今はそれが

普通になっています。やはり顔を見て心を込めて誠意を込めて相手に伝わって相手に理解をしてもらうという人間が共感といいます。そこを軽視するようなことになっていく。それはそれでしっかり残していきながらツールとして使っていったって効率を上げていくというのがある意味大切なことだと思ってやっていたかないとそこを外すと大変なことになるのではないかと素人ながらに思っていますので是非その辺のところを考えていただくとありがたいかなと思います。

村上委員

私ごとになるのですがうちの孫が岩田中学校に今年4月に入学しました。そしたら岩田中学校は完全に1人1台のタブレットを購入させまして入学式の日に使いかたとか設定をさせて翌日から即、タブレットを使っての授業だったんですよ。一方的な講義と言う話が先程あったんですが、目の前に先生がおられてですね、1対1ですべて話をするんですね。そしてテストとかもありまして書くとき書き終わった瞬間に先生が向こう側で○付けをしてくれてすごい一番だ、早いぞとかですね、全く目の前の授業を受けている状態で学校側には大きなスクリーンがあって全員が見れるんですね、先生側からは、こちら側からしゃべる人だけがスイッチを入れる。先生側からもどうにでも出来るらしいんですけども先生ここが判りませんと言えれば他の子には聞こえないようにスイッチを切ってその子だけに説明をしてくれたりとか、すべてがアップで顔とかも見えるので私も映らないところからこっそり見させていたんですが、その子の性格とかも一週間もすればすごい判るし、先生にしてみてもその子の体調とかもわかります。授業時間の間にもし、そこから抜けていたらそこから全部見えるので朝の朝礼から終礼まで時間通りにきちんとしていたんですね。だから私はすごくよいシステムと思いました。私立ですからその辺にお金をかけるし、保護者に出させるんですけども。公立になるとそこまでいかないと思うんですけどもそういうふうに1対1で出来るということをしてすごく良いことだなあと私は受取ました。一方的講義を見せるとかではないんです。普通に授業で双方向にしています。目の前で○付けをしたりここが間違っているとかの採点をしたり、先生の負担が多分大きいと思いますが1人で40人みるのですごく良いシステムだなと思います。

中野市長

ICTを使った授業をしていく中でどうすれば子どもの力をつけていくかというのはいろんな意味で研究をしていただくといいし、そのようなことが後日、また報告をしていただくと有難いと思います。議題2に行く前に働き方改革ですけども教育長、その辺はどのようなになっていますか。

安東教育長

働き方改革についてはわたしが就任して5つの課題の5番目に先生方の働き方改革というのを挙げさせていただいて本年度取り組んでいるのですが、ソフト面とハード面があると思うんですが、やはりソフトの部分でいくと先生方の意識改革をどう進めるかというのが課題になってきょうかなあと思っています。学校の教員の仕事の範囲という範囲がここまでというのが実はないんですね。家に帰っても子どものことを相談があれば対応する。買い物にいらしても教員です。市役所も同じだと思うんですね、子ども達のためという言葉、市民のためという言葉の支配というのはどうしても拭えないところがあります。なので、まあいいか、もういいかという言葉の時々使うんですけども、その言葉は少し諦めてしまう言葉になるんですけども、この辺だったらいいかなというところは、先生方に是非持っていただきたいと思っていますし、そのことを働き方改革については先生方に僕が言うのは子ども達のために働き方改革をしてくださいと。先程どなたかが言っていましたけれども先生と悩んで相談にきたのに、今ちょっと忙しいから後にしてと言っていて、子どもが何か訴えようとしているチャンスを逃してしまいます。やはり先生方に余裕がないと中々素晴らし対応が出来ないと思っていますのでその意識改革につきましては学校現場の先生方をお願いをしながら、

ハード面でいくと昨年度から施行しました、出退勤システムを本格稼働しました。これは客観的に勤務時間を把握しようということで9月は手元に資料がないのです正確な数値は言えませんが45時間を超えた先生方がたしか、20数%いたと思います。過労死ラインと言われる80時間を超えた先生も数名いたと思います。これは指導しますけれども客観的にそうやって自分の勤務時間はわかるようになると気をつけるようになるというのが一つあります。今後、システムを大分とか臼杵とかで同じシステムでいろんな資料を作成するシステムを統一すると、これは手書きで良くなりました。手書きでいいところも本当はあるんですけども業務効率化が出来る。それとか、他の市町でしているんですがこの時間から学校の電話は学校にかからずに警備会社にかかって緊急性のあるものは学校にかかる。すると先生方が夜もずっと電話の心配をしなくてもよいかがあります。これも一長一短はあると思うんですけどもそういうハード面のことも考えないといけないと思っています。それからICTについても効率的、効果的に授業を進めるというツールとして私は非常に良いと思っていますし、やはり学校教育1丁目1番地は市長が言われるとおりにface to face、市長が言われる通りだと思いますし、先程言われた授業においてはICTも良いとは思いますが、例えば多様な人間と交流をすとかスポーツを一緒にすとかいう時にこのICTだけでいけるのか課題もあるだろうと思っていますのでそこら辺りも考えていきたい。それから今回、5月12日まで分散登校で学校の先生、子ども達が感じたのはやはり人数が少ないと授業が分かる。それで今回、文部科学省が少人数学級や教科担任制を小学校に導入しようと考えています。これも一つは全部の教科を小学校の先生は朝から晩まで教えます。ですから休む時がありません。算数や英語や理科を教科担任の先生が教えてくれるとなるとその時間が1週間に例えば5時間とか8時間とかノートを見る時間が出来るんですね。なので働き方改革の一面としても教科担任制を入れようという事と少人数学級はやはり効果が出ています。今、学校によっては先生方の努力で自分達の授業実習を増やして少人数学校をしている学校もあります。これは一つ進めていく価値があるなあとと思っています。少ない人数で授業を受けるとやはりよいです。これが3密対策でひょうたんからこまで感じたところでありませう。以上のようなことをしっかり取り組んでいくことが先生方の働き方改革につながるのかなと思っています。

中野市長

働き方改革というのは一朝一夕にすぐ解決するものではないのですがやはり先生方がこういうことに向き合う時間をしっかりつくとかあるいは先生達が教科の予習・復習に時間が取れるとか、いろんな形でしっかりしたものをつくっていかなければならないとこれから難しんではないかなと思っています。それを我々、日本全体の課題だと思っています。脱線するような話をして悪いんですけど、後10年もすれば日本からノーベル賞はほとんどでなくなるだろうと。今の教育体制の中ですと。そうすると、まず、今のアメリカと同じような形でノーベル賞がもらえるラッシュになるのは、中国ではないかというくらい人口が多い中でそういう教育に対する集中的にお金を投資しているところがありますのでそういう意味では本当に日本も資源がないし小さな島で世界の中で生きていくかがあるので、最初はこういう人を育てていけるかというのがあるのでそういう意味では、日本全体のことが必要ないということかもしれませんが、それぞれの自治体の中での教育の積み重ねが日本全体の力になるという意味で我々もこれからしっかり子ども達のためにもしていかなければならないと思っていますので色々ご意見等がありましたら遠慮なく聞かせていただきたいと思います。今日は時間が限られている中で、色々盛り沢山の議題になっておりますので少し消化不良かもしれませんが2番目に入らせていただきます前に他にありませんか。

渡辺委員

いろんな機材を使ったり最新のIPADなり最新のICT教育を進めていく訳ですが一番大事なのは人間をつくることなんですね。そこを忘れて只々知識が溜まっていけばよいのか

と学校教育と言うのは。ですので私は今、教育委員をしていますので教育委員の立場として言わせてもらえば沢山の便利な機械を使うことは大いに結構ですけどもそれはあくまでもツールとして使うことであってそれがメインとなっていけば当然のことながら人間というのが出来ていかない。東中学校の学校教育目標の中に最後にこれこれの人間をつくるというのを掲げてしています。どこの学校もこれこれの子どもを育成すると言うような。そういう子どもというのはやはり人間をつくるということが最終目標ではないかと思うんです。その為のいろんなことを忘れていったらいけない。市長が一番最初の冒頭におっしゃった言葉の中に変わるものと変わったらいけないものとそれを、それぞれが自覚しながら色々な事をすすめなければいけないと思います。それだけ言いたかったので言わせてください。

中野市長

ありがとうございました。全くそうなんですが一体的に教育実践の中で人間をつくるというのはどうするのかという事で昨年も悩みながら頑張っているんですね。でもそこを抜きにしたら成り立たないということが委員のおっしゃられることはもっともだと思いますのでぜひ教育の現場の中でそういう所を実践の中でやっていただければと思います。

それでは2番目の新型コロナウイルスが及ぼした影響についてをあまり時間が無くなってきましたので要点を踏まえた説明をお願いします。

学校教育課  
後藤課長

(2) 新型コロナウイルスが及ぼした影響について資料に沿って説明

中野市長

ありがとうございました。議題2について課長から説明がありましたが何かご質問などありませんか。

村上委員

肥満傾向についてですが、先程、保護者に対して栄養指導を行うとおっしゃっていましたが、肥満、太っていることがすごくいいことだと思っている保護者さん、お爺さん、お婆さんとかと暮らしてらっしゃると痩せていると栄養不足と思っている方が野津地区とかは多いんですね。そこら辺の意識改革をまずさせないと食べる食べろとにかく大きくなるといふ感覚の方がまだまだ多いんですね。民生委員でお年寄りの所を回ると孫とか子どもとかとにかく食べて太らんといふので健康的なのがどれくらいというの、保護者とかお爺さんとかお婆さんに分かってないんじゃないかなと思います。子どもさんが太っているからと言ってお母さんだけ言っても陰でほかの方が食べさせたりしていると思うのもう少し学校でお爺さんお婆さん教室。今はコロナで出来無いでしょうけどそういうふうにならばよいということだけでないということをお勉強させるとか、お爺ちゃん・お祖母ちゃんのための教本みたいなのを大分市の方はあるみたいですけど、孫が可愛いかったらこのように育てましようみたいな本をつくって配付するとかそういうふうな指導をしないとどんなに本人と親御さんだけに教育しても直らないんだなというふうには思います。小児生活習慣プロジェクトもいいんですがもう少し保護者とお爺さん・お婆さんの考え方を改めたためたような考えをしたほうがよいと思いました。後、いじめはどんな小さなことでも全て拾い上げているということなので数がすごく多く感じるんですが、早め、早めに芽を摘むのは大変よいのではないかなと思います。ただ、いじめる側が悪いのはもちろんですが本のちょっと冷やかされただけでも私はいじめられたと言って落ち込まないような強い心の子供たちをつくって上げないとその子の人生が随分変わることではないかなと思います。不登校の方は平成28年度小学校10人とか9人8人だったのが3人に減少しているのはすごい良いことだなと思いました。これからも見守りとかをきちんとしてあげて欲しいなと思います。

中野市長

先程の村上委員さんからのお話ですが、食に対して保護者とかそちらに対するアプローチ

というのは先程出てきた小児習慣病対策プロジェクト、学校だけではなく全体的なこととしていこうということなんです、そういう意味では大分市にはそういうパンフレットみたいなものをつくっているんですがそこまでまだいいですかね。

学校教育課  
後藤課長

臼杵市では冊子で素敵な孫育てとかいうような冊子なんです。生まれた時にはこのように接しましょうで順番に年齢が上がって行って昔はよかったんですけど今は良くないですよ。みたいなのをイラストをいっぱい入れながら説明があるんですね。昔は可愛いお孫さんに乳酸飲料とかジュースをいっぱい与えましたが今は良くないですよ。みたいなを書いてあるんですね。そういうのを教えてあげるのを分かり安くしたほうが良いのではないかというふうに私は思ったのです。

中野市長

その辺の所が課題というところですね。それと、先程課長が話していた2次健診は予算的なことを踏まえて今からの話ですか。

学校教育課  
後藤課長

予算措置をしていただいて今年度実施予定だったんですけど、学校健診が出来なかったものですから現実的には来年度からの2次健診となります。

中野市長

神田委員にお尋ねですが、いじめとかその辺のところで何かありませんか。色々な動物の世界での生体とかよくご存じだと思いますが。

神田委員

まず、コロナの話からするとヨーロッパでもロックダウンが始まったりしているので日本でもおこらないとは限らないのでこのケースをもう一回見直してこういう状況になったらこうしようという、結果的には先生方の努力もあって保護者の理解もあって感染者が学校内でも出なかった、クラスターにもならなかったということがあるのでこれを良い例だと思えますので、これを基にして今後ロックダウンがあった時の対策はもう一度立てていく必要があります。これでコロナが大分県で何日も出ていないですけども収束するとは決して思えないので感染症予防はいろんな対策が必要だと思います。それから、肥満の件なのですけれども資料に一部の学年が突出しているところがありますけれども要因はなんですか。

安東教育長

原因はドクターに聞いても分かりません。

神田委員

統計学的にも何かありそうな気がしますけれども分かりました。いじめの問題ですけれども動物で言うといじめはあってしかるべきなんです。絶対にあります。いじめと言うか弱肉強食の時代ですので生き死にです。100%あるんですね。人間が今、問題になっているように親が子を捨てたりネグレクトのような状況とかとても多く見られます。症例ではあります。そこはやはり人なので、道徳とかモラルの中で生きていますのでいじめがゼロになることが理想なんですけれども、それを感じる人がいじめと感じてしまったら無くならないし100件を超えて沢山出てきていることはよいことだと私は思っていて実際には何がトリガーか分からないのでトリガー探しのためにはひやり・はっとと同じで沢山ひやりはっとが出た中で例えば299匹いたとしたときの小さな事故は30件あったとしてそのうちの1件は死亡事故になるみたいな感じで沢山出ることによって小さな事故を防いでいく、事故と一緒にしたら悪いのですけれども、そういう意味では件数が出てることが多分現場の透明化、風通しがよくなっているのではないかなと思います。これを言うなといういじめもあるはず。伝えたらだめよとか。先生に言ったらもう一回いじめるからなといういじめのある中でこうやって出ていることはやはりいい状況の現場になってきています。ある事は悪いことかもしれないですけど、そんなに他の市町村と比べて不登校の子どもが爆発的に増えてはないです。

それが透明化していることがとても良いことではないかと思います。

中野市長

いろいろな意見について、肥満の問題もある。もちろん食事とか運動とかあります。一番私の立場で心配なのは学校の統廃合でスクールバスというのが学校まで遠い人が乗っています。

結果的に運動不足と言いますか、エネルギーをためてそれがこういう形になっているのかなあと思ったのですけれども。そういうのが顕著に表れているのかなあと思っているのですけれども。そういうのが顕著にエビデンスとしては現れてないですね。今までは例えばこの辺でいったら歩いて4キロ、5キロ歩いていたのが統合になってバスで登校するようになって結果的に運動不足になってそれがこういう形で肥満になったというようなそういう統計分析が出来るほどのものになってきている。そこがちょっと気になったんでそれはいいんですか。

学校教育課  
後藤課長

ないですね。

村上委員

でも野津地区で言わせていただければ、戸上の親御さんは運動不足になってすごい太ったという話を聞きました。でも戸上の親御さん、2便でるんですが1便は野津中央公民館で降りてそこから小学校まで歩かせる。2便の方は直接どうかしたら家の真ん前までバスが来る子供さんとかもおられる見たいであれをどこか近くの公民館とか行き過ぎることになるんですが中央公民館まで連れて行って降りて少しでも歩くようにしてもらえるようにしてくれないかしらという意見を何名かから聞きました。今はもう家の前で乗って直接野津小学校で降りることになっています。田野便は直接、小学校が近いですので仕方がないかも知れませんが出来れば戸上地区のように野津公民館まで行き過ぎて降りてそこから戻る形になりますが歩かせて欲しいという意見もやはり何人か聞きました。

学校教育課  
後藤課長

肥満対策なんですけど何が原因かは多分一つの原因ではないです。いろんな取り組みを総合的にしていくしかないと思っています。体育の授業の改善、給食保健指導、今村上委員がおっしゃった、ちょっとした通学に係るバスの工夫とかいろんな取り組みを総合的に今後実践していけたらと考えています。

中野市長

なかなか原因と対策が難しいところなんですけれども結果として大いに考えないといけないと思っていますのでよろしくお願いします。これからも検討をしていきたいと思っています。他にありませんか。

佐藤委員

2番目の項目について意見を言わせてください。授業時間の確保については市教委や先生方が大変良してくれたと思っています。2番目の体力・肥満の状況についてですがこれはまさに家庭環境の問題だと私は思います。給食センターの方については毎日本当にしっかりしていただいていますし、本当に感謝しかありません。今、物質的には沢山物が溢れて便利になっているのですけれども、子どもたちの貧困と言われてますけれども、今まさに心の貧困が問題ではないかなと思っています。子ども達の心は聞いた言葉からつくられた体は食べたものでつくられると言いますがやはり環境が人をつくると思ってますので、子どもの環境はまさに親がつくる。これは家庭・親の教育力の低下に問題があると私は思います。それぞれ生活スタイルの多様化があっても一律とはいいませんけれども。

次にいじめ対応、不登校支援についてですが白杵市には4つのプロジェクトがあると聞きました。白杵っ子輝きプロジェクトですかね、いじめ対応、不登校支援特別支援教育を行っていると聞きました。これにプラス親の体罰の禁止が今年施行されました。児童虐待防止法ということで家庭でのいじめの認知、調査も入れていただきたいなあと思っています。2018

年、19年の関東での親の虐待事件というか殺人ですね、そういうが臼杵市でおきたら大変なことになると思いますのでそこら辺の家庭内のいじめについても虐待についても認知・調査をしていただきたいなあと思います。以上です。

中野市長

ありがとうございました。ここで学校内のことを聞くとまさに佐藤委員が言われたことが非常に大きくて市役所でも人権がそういう所を担当しているんですけども。ようするに家庭内暴力ですね。親子もありますし夫婦もあるんですけども今やはりかなり厳しい問題をいくつか抱えていて、それはコロナとかの形の中でどちらかと言うと増えている。今までの生活が変わっていますので、そのことが子どもに対して非常に影響が出てきているというのがありますのでこれは学校内だけではなく全体で考えていかなければならないといけないと思いますのでその辺の所をこれから真剣に取り組んでいくということをしていただきたいと思います。それでは次第の3番目事務局よりお願いします。

社会教育課  
川辺課長

新型コロナウイルスの影響による社会教育活動とスポーツについて資料に沿って概要説明

中野市長

今の状況は基本的にオープンにしていますけれども密のところや人数制限があるところは残している。そういう感じで良いですか。

社会教育課  
川辺課長

はい。そうです。

中野市長

それと、今回収工事で諏訪山体育館はいつどうなるのか教えてください。

社会教育課  
川辺課長

諏訪山体育館は6月から全面改修工事を行いまして12月末までの計画となっていますので空ける期間もなくそのまま工事に入りました。

中野市長

オープンはいつですか。

社会教育課  
川辺課長

年明けの1月4日からオープンします。

中野市長

この件について聞きたいことはありますか。

(意見なし)

それでは時間も大分下がって来ておりますので議題を離れて全般的に何か気が付いていることからここで話題にしたほうが良いようなことがありましたら出していただき、参考にさせていただきますと思います。

村上委員

1番に学力向上の対策とありますが、今回、読書活動とICTについて話し合ったのですが目標値を臼杵市はどのように考えておられるのかをもっと判りやすく具体的に教えていただけたらと思います。

中野市長

その辺のところは教育長にお答えをさせていただきまして、私は基礎学力をつけて送り出すと言うのを皆さんに最もだと思っていただくよう私も努力しているつもりですが、では基礎学力は何でどのレベルで数値化出来るのかというのはなかなか難しいんですけども少なくとも私が市長になった前後の頃は何で図るか、そのようなものでは図れないです。全国



学力テストとか大分県の学力テストとかで勝負したら臼杵市はブービー賞を争っていたんですね。それはいけないと思いました。臼杵の市民は大分県下でブービー賞を争うほど親のする教育力とか分解力とかで教育に対する情熱が落ちている訳ではないと思うんで普通のことをすれば最低でも平均以上はいかないとおかしいのではないのが非常に根拠のない。そういう形でとにかく基礎学力をとということで、数字で目に触れて判るようなことは今言ったようなことで上がってきているなど感じます。それが本当の基礎学力かというのはどこまで言えるのかと見方はあると思うのですが、そういう形でしていきました。学校が出来てきたら日本の経緯を考えた時に明治時代から近代の中で公立のものをつくっていったというのを近代社会の中で人間が生きていく、やはり人を育てていかないということが大きな目標の中でやっていく。人としては人間のこと、一人一人レベルを上げるというのをもう一方で当然国がお金を投入するというのはレベルの高い国民をつくるということで利便性があると思うんですね。一人、一人そういうものを伸ばしていく。そういう中でやはり基本的にしてきたことは学校というのは江戸時代からと違うのは公が責任をもってするというは逆の言葉で言うと近代において家庭や地域で子供の学力、知力、知恵というのを育てるというのは無理な時代になるのでそれは親は働き、そういう意味では専門の機関をつくって親がお願いをしてそれを専門の教師という人をしっかり養成してそこでお願いするという仕組みになので長い歴史を見れば当然、臼杵の小学校、中学校で義務教育の中で親が是非、うちの知的レベルを一定のところまで高めた上で社会へ送りだす。それは個々の家庭では無理なんだからそういう形で学校の先生お願いしますということで全国民が税金を出して公的にしているんですからそういう意味では基礎学力をしっかり育てて送りだすというのは先生方、教育委員会、あるいは我々を含めて親に対しての責任を果たしていくという意味では基礎学力を外されなないと思っているんですけれども中身についてどうするかというのは難しいというか見方があるしただけ、そういう所は教育長何かありませんか。

安東教育長

どの点数を目指すかと言われると市長が申し上げたとおり28ショックというのがありまして、平成28年に成績が大分県で最下位でした。それから様々な取り組みを臼杵市教育委員会もそうですし、今日渡辺委員もいますけれども、校長会も一緒になって現場の学力向上プロジェクトというのを立ち上げて頑張ってきました。おかげさまでここ数年、全国平均を全部の学年でクリアするという状況です。数値目標はなかなか立てにくい状況であります。せめて全国平均は越えていくことだということに今はお答えしたいと思っています。今、我々子ども達がつけなければならない能力というのがあって一つは生きて働く知識にも、この知識の部分が今、委員がおっしゃられる学力の数値でおさえられる。それからもう一つ、未知の状況に対応できる思考力、判断力、表現力、これがですね、色んな究極な判断を自分でしたいとか考えてみたり、それを相手と表現をした能力もつけないといけない。もう一つは学びを人生や社会に活かそうと学びに向かう力と人間性の寛容というのがあります。この学びに向かう力というのはすごく大事だと思います。疑問に思ったことに直ぐに調べたり人に聞いたりいろんな事で自分が学ぼうとする力。こういう力をつけながら今から支え合っていこうという、超スマート社会で正解がない社会に出た時に色んな方と自分の過去の勉強も結びつけながら知識を繋ぎながら答えを導きだす。合意形成を図る力、つまり知識の部分はそのベースにあると思っています。ですので学校教育は点数だけを追うのではなく、人間性、色んな人と仲良く出来ながら社会にしなやかに生き抜いていく力をつけなければいけないし、一方ではそのためには健康でなければならないので体力もつけなければならない。ということで数値目標とすれば、今、漠然としているんですけれども全国平均は軽く超えている学力はつけていきたいなあというふうに考えています。

村上委員

ありがとうございました。今、コミュニケーション力とかをつけるため、人間性をつける

ために、読書をするという事は生きていく上のコミュニケーション力をつけるのにすごく役立っていると思うので大変良いことだと思います。私がこういうふうに聞いたのは野津小学校で5年間水曜放課後教室のサポータをさせていただいたんですが、最初に2年生を担当していた時に、2年生の5月の時点でそれぞれ100点と0点というくらい差が激しいんですね。テストをさせると、2年生5月というはまだ、1年生がやっと終わったばかりなんですよ。それなのにその時点ですごく差がついてたので、基礎学力の定着が目的の放課後水曜教室ですが週1回ですから、そんなには伸びない訳です。ですから小学校1年生の時点でどうしてそんなにまで差がつくのかなとすごい不思議ですね、その子によって親御さんとかが熱心な子は先生どんなふうにしたら良いですかという質問をしてくれる方もおられてとにかく繰り返しですよ、算数とかはですね。おたくは7の段がダメだから繰り返してくださいとか、割り算が苦手だから繰り返してくださいと親御さんが一生懸命夏休み40日間された子は2学期から急に伸びたりとかもあったんですが、とにかく1年生のときのまだ1+1位かなというふうな授業でなぜここまで差がつくのか教育畑ではないのでわからないのですが、そこら辺がどうかと思うんですが先生された方どうなんですかね。

安東教育長

その子供さんのことを見ていないので一概には言えないのですが授業ではきちんと1年生、2年生ですからスタートとかきっちりとしていくというふうに思います。後は子どもの個性もあるのかなあというふうに思っています。放課後子ども教室に来られる方は去年、10月から私はある学校に毎週、算数と国語を教えにいったりするんですがやはり個性のある子どもさんが沢山いて席につかなかったりスタートするに10分かかったり途中ですぐ飽きてどこか行ったりでも少しずつゆっくり教えていくと分かっていく。これは個別最適化された課題をああいう一時間の単元の授業ではなくてここまでぜったいに来なければいけないということではなくて時間をかけながら出来る。ああいう放課後子ども教室というのはそういう子どもさんには有効だなあと思っています。学力のレベルと言うのは元々のポテンシャルというのもあるかなあと思いますのでその子にあった教材をゆっくり出来る部分では有り難いことだと思っています。ですのでその子どもさんがどうしてというのは見ていないのでお答えしにくいです。

村上委員

1人、2人ではなくて毎年なんですよ。毎年2年生に入った時点で出来る子、出来ない子、極端に差があります。1年生の所で既につまづいているのかなあと思って少し心配になったんですよ。それがそのままこんなに先生方一生懸命していると思うんですよ、特に1年生とかは。それだったら先生1人とかだったら負担がかかっているのではないかと考えてですね、いっそのこと保育士の資格をもった方を支援につけるとか、一人二人に支援をつけるのではなく全体を見渡せるような保育士さん結構数を沢山見られていますのでこの子がよそ見していたら集中しようと思掛けをするとかですね。そういうふうな誰か支援者をつけてあげないと、担任の先生、一人でされてるのか副担任がおられるかわかりませんが相当負担がかかっているから判らない子が判らないままいっているとかがあるのかなあというふうに少し思ったんです。先生の経験とかないので分からないですけども。

安東教育長

ありがとうございます。特別教育支援員につきましては市の予算で必要な所は潤沢ではありませんがついて授業をさせていただいています。野津小学校、私の知る範囲では先生方の努力で算数については先程も申しましたように少人数学級をさせていただいています。ですので5、6年生30数名いる所を教科によって2つのクラスに分けて授業をさせていただいています。そうするとそういう子どもさん達、ゆっくり先生の手が入りますので平均をかなり超えていただいている。ですので先程少し申し上げた少人数学級や教科担任制というのがすごく子どもにとっては学力を上げることに含めても有効だというふうに思っています。これを

段々と予算のかかることですが進めていけるといいなと思っています。

村上委員 ありがとうございます。

中野市長 神田委員、その所、学力とかを含めて何かありませんか。

神田委員 今、コロナの中でコロナだから出来ないことも沢山あると思うんですね。例えば体育大会とか一周駅伝とか。これはコロナだから仕方がないとみんな納得いくんですけどもコロナだけでもやらなければならないことって多分沢山あって特に臼杵っ子育ての中で去年までしっかりやってきた幼少の連携とか小中連携、後は教育長がよくおっしゃったブロック内、北ブロックとかの連携というのはコロナだけじゃないと今、村上委員がおっしゃったような中1、小1の状況とか通学とか学力とかの問題を今まで少しずつカバーしてきたものが、コロナだけでも考えてやっていかないと勿体ないしその空白の時間が出来ると大きな臼杵市の教育の中にジェネレーションギャップが出来ていくような気がするのでそこをモデルケースとしてやっていくことでもしかしたら小学校同士の連携とか村上委員がおっしゃられる2年生の中での差があるのを埋めていくのは先生方の連携、もしかしたら1年生の先生同士の連携とかもあると思うのでコロナだけでもやれる方法を見つけてせつかく今、臼杵っ子育てが軌道に乗りかけていたものをやはり継続してやっていかなければいけないと思うんです。その為には時間と物と人と金と沢山の力がかかると思うんですけどもしっかりした段階を踏んでコロナの中だけじゃやっていくことが必要なのかなと思っています。

中野市長 他にありませんか。

佐藤委員 今、臼杵っ子育ての話が出たので関連しますが教育とは離れるかも知れないんですけど子どもありきの教育ということで私が今、一番問題視しているのは少子社会、少子化問題ですね。臼杵を担う臼杵っ子の育成ということで沢山の力を入れていると思うんですがやはり大分県の中でも臼杵の出生率は一番下くらいではないかと聞きましたので臼杵っ子の育成というよりも臼杵っ子の出生の方に色々取り組みがあると思うんですがどのようにお考えなのか市長の意見を聞きたいと思うのが一つと後、もう一つ資料7のお話ですが西中のPTAの役員の時、平成30年ですかね、第2回のオープンスクールの時に市長さん、教育長さんが学校に見えて西中の3年生と市長との意見交換会ということで若者が住み続けたいと思う街づくりをテーマにお話頂いて、前例のない試みということで市長さんの何十年かぶりに学校の授業参観に参加したという話を聞きました。今度は野津中学校で開催されるということでもっと学校現場に足を運んで生徒との意見交換会をずっと継続して各学校に行ってもらいたいなと思います。そうすると子ども達が市長に興味を持ったり、市政に興味を持ったり、そういうことも臼杵っ子育成の一つのために取り上げていただきたいと思います。

中野市長 生徒との意見交換会については私も興味を持っていますので後ほど報告事項ということで担当の方から報告をさせていただきます。今、佐藤委員さんが言われたように臼杵の出生率というのはですね低いんですよ。18市町村の中で下から数えたほうが早い。それで我々もその原因がなにか考えるんですけども一つ言えるものは合計特殊出生率という形で大体40歳位までの子どもを産める人の割合を考えた時にそういう人達が、今臼杵にいる人が少ない。ですので生まれる子どもが少ないというのがあってそういう意味で子育ての関係でとにかく大分にかかなくても臼杵で子育て出来るではないか。逆に言うと大分より臼杵のほうが子育てし易いねと言う環境をどう作っていくのかこれは相応なので、教育だけではなくて保育園もそうですよね、子どもの健康の病院とかもありますしもう一つはいろんな意味で働く

場所がないといけないとかもう一つはやはり若いお母さん達が仕事と子育てが両立出来る環境をつくるとかいろんなことをやっていかないといけないとかそういう取り組みをずっとしてきたつもりであります。一つはチャポートというのをまさにそういうものの一つとしてつくりました。0歳から18歳までの子供達が福祉、健康、教育に対して相談事全ての養成の事をワンストップで出来るような取り組みです。これは大分県で初めてだったんですがフィンランドのネウボラという制度を臼杵流にアレンジをしてつくったものでありましてそれも結構、月に今、1000人以上が集ったり研修したりしています。子育て相談を3つの部屋があります。全く個室になっていまして普通の玄関ではなく裏からも入れます。他の人にも見られなくて相談出来るようなそういう仕組みもしていますし、1階はエアコンを全部入れてますので3歳児位の子ども達が若いお母さんに連れられてそこで室内用具で遊びながら、別の所でお茶を飲んだり食事をしたり育児の情報交換をしたり出来るようなそういうものもしていますし、後、東保先生の所で病児・病後児保育所をつくっています。ここも相当な人が利用していただいています。1300人か1400人位です。今回、コロナの問題もありまして東保先生の所ですが、12歳以下の発熱した外来患者は大人はコスモス病院の横に発熱外来の施設を作りました。12月26日にスタート出来る様になっています。子どもの方はスタートしています。そこにまずは熱が出た子どもが出ると他の診療の前に行かなくてそこで先生が診てくれてまずコロナかどうか、そしてまたインフルエンザかどうかというのを診ながらそこで診られる。でするのでその部屋は減圧しています。空気が外に出ないようにして移らないようにしています。結構そういうのがありますし、後、保育所あたりが今、臼杵の場合は全員入れる体制を作っています。そういういろんなことをして何とか大分ではなくて臼杵がいいねという形でしたいところです。結構、大分県が出したこの前の統計で言えば0歳から10歳未満の十年間でその子どもが臼杵で生まれた子が外に出て行って、あるいは外に出て行って同じ年代の子が臼杵に来ているのを見ると220人+なんです。一学年につき20人位づつ生まれた子でよそから来ている子どもが学校に入っているということなのでそういう方法をこれからしていきたいと思えますけど臼杵の子どもの母親たちが外に出ているというのをどこまで止められているのかという所はなかなか難しいところがありまして今までは大分市に出ていった240人位出ていったんですけれども今、移住、定住に力を入れてますけれども80人位に落ちています。ですので私の政策的に+-0も目指して頑張っていけば若いお母さん達が来れるのかなあと思っています。さっきから10歳まで200人増えているというのは去年が255人、移住者がいるのです。そのうちの7割位は30代、40代以下なのです。この年代は小さい子を連れてきて移住してきています。こういう人達が臼杵は良いねという環境をどうやってつくっていくのかという事をしていかなければなかなか難しいなあと思います。これは1年、2年では出来ないので継続していかなければならない。もう一つは今一番教育長も頭を痛めているところでしょうけれども、高校進学の問題がいろいろと厳しいと思えます。今、私の中で間違っていたらすみません、1学年2、30人大分市の進学校に出ていっています。今までは、臼杵高校で完結していたことが大分まで出ていく子どもが非常に増えていることが、これがもうひと頑張りして、臼杵の中で子育て出来るような環境をつくらなければなりません。色んなことを考えて力をつけていくことが最終的には本人の選択なので言えないですけれども臼杵も頑張っているねという環境をどうやってつくるか教育の面でも考えていかなければいけないんじゃないかなというふうに思っています。そういった諸々のことを総合的な対策としてやった時に初めて臼杵で出生率が増えたり臼杵の子どもの数が居住で増えたりというふうになっていくかと思えます。その方向はこれからも継続していきたいと思っていますので是非、皆様方も教育の中でそういう事を踏まえてサポート体制を作ってくださいとありがたいかなと思っています。他に意見などはないでしょうか。(意見なし) それでは次に次第の3. 報告事項を事務局よりお願いします。

(事務局)  
秘書・総合  
政策課佐藤

### 3. 報告事項

中学生と市長の意見交換会について11月4日(水)に開催予定の野津中1年生と市長の意見交換会を次第に沿って説明

(事務局)  
平山課長

少し補足ですが、この意見交換会ですが、従来「子ども市議会」というのがずっとしておりまして一定の成果を上げましたので、それに代わるものとして中学生と市長の意見交換会を実施しました。特に西中で2年前に初めて、教育長が校長先生の時に実施させていただきましたICT教育の現場というのを私も見ましてすごいなと思いました。昔はプリントを後ろから集めていたのがI P A dで大きな画面で写ってそういったことでICTに係る予算が倍増したというような話を担当課から聞いておりますし、去年南中は全校生徒が参加しまして成績の良い人からそうでない生徒も全員が市長に思いをぶつけていたのがすごい印象的でした。それが来週の11月4日の舞台は野津中学校ということで開催します。教育委員の皆さんも時間が許される方はご覧になられればと思っています。それから臼杵暮らしスタートブックというのを先程お配りさせていただきました。これは、佐藤委員から先程お話がありました少子化対策の市長のお考えなのですが市長が総合的にしているということで、子育て、医療、教育、農業、暮らし全般に臼杵が今、何をしているかというのを数えたら200くらいありましたので、住み心地1番を支援する200のメニューと題しましてこのようなパンフレットを移住者とか、視察の時とか色々な機会に配って紹介しているところです。

中野市長

ありがとうございました。時間ですので、今日は大変興味深い会議となりました。それぞれの持ち場で今日の出た意見を活かした教育を目指して共に頑張っていきたいと思っています。それでは、事務局にお返しします。

(事務局)  
平山課長

令和2年度第1回目の総合教育会議を終了いたします。後日、ホームページに議事録を掲載させていただきます。本日はありがとうございました。